



(文責は、各質問者)

一般質問に25人が登壇

岩谷市長の 市政運営について



吉田 稔
議員

過日、岩谷市長は10月の市長選挙へ立候補すると表明されました。

そこで、以下お伺いします。
①4年間で取り組んだ内容。
②前回の市長選挙の公約について。

③もう少し推し進めていく必要があると感じている公約など、さまざまな思いを踏まえて、今後どのように本市の市政運営に取り組んでいく考えなのか。

○市長

①新型コロナウイルス感染症対策として感染拡大防止と地域経済や市民生活への支援、総合振興計画の各分野における取り組みについて全力で取り組んできました。

②公約として、大きく5つの項目を掲げてきました。主な取り組みと結果ですが、多くの人々が行き交う活気のある「かすかべ」にチャレンジ！では、旧春日部市商工振興セ

上下水道事業の 各計画改定について



奥沢 裕介
議員

近年、全国各地で老朽化や自然災害などを背景とした水道管破損漏水事故が継続的に発生し、断水、濁水、道路陥没の増加などの課題が顕在化しています。加えて、上下水道施設は、地域の生活・医療・産業に密着した重要なインフラであると考えます。

上下水道事業を安定的に継続していくために必要な本市の取り組みについて、市長に伺います。

○市長

上下水道は、市民生活にとって欠かすことのできない重要なインフラであると認識しています。

上下水道の事業を安定的、継続的に行っていくには、経営戦略に基づく健全な経営を図る必要があります。

そのため、八潮市内で発生した、県流域下水道管の破損に起因する道路陥没事故について、中川流域管内の市町に新たな負担が生じないよう、令和7年7月には管内市町で構成する協議会において、私自身も出席し、大野知事に直接要望を行ったところです。

今後についても、市民の皆さまに安全で安定した水道水を供給し、生活に支障なく汚水を流せるよう、上下水道施設の計画的な更新や適切な維持管理に努めるとともに、経営基盤の強化に取り組んでいきます。

このほか

○自治体情報システム標準化とDXの推進について
○シェアサイクルについて

市の文化財保護のため 郷土資料館の充実を



今尾 安徳
議員

私の住む内牧地区において、民地に設置されていた石造物2点が、最終的に処分されるということになりました。昔の人々の暮らしや生活に思いをはせることは郷土愛の醸成にもつながるものと考えています。また、郷土資料館を充実させ、こうした文化財の一部でも保存しながら市内の歴史遺産の観光などにも活用できるようにしていくべきだと考えます。例えば「くるつと春日部歴史探検」など、そこに行けば本市の歴史、人々の時代時代の生活が分かり、そこから市内観光につなげていくのではないかと考えます。そこで、郷土資料館の充実の考えと、市長に、市民の生活の歴史を残すことに対する考えを伺います。

○社会教育部長

春日部市文化財保存活用地域計画に基づき、文化財の保存活用の拠点としての郷土資

料館の充実に努めていきたいと考えています。

○市長

地域住民の残したさまざまな生活の跡を知ることができ文化財は、地域に暮らしの人々の生きた証しを後世に伝える大切なものであると認識しています。今後も文化財保存活用地域計画に基づき、文化財の調査と記録を進め、郷土資料館などでの普及・活用を通して、その価値を伝えていきたいと考えています。

このほか

○内牧公園内にプレイパークができるスペース確保を



市内の歴史遺産

コープかすかべ テラスについて



大里 昇
議員

今年の6月10日に春日部駅東口から教育センターに向かう、学校通り沿いに複合施設が入ったコープかすかべテラスがオープンして約3カ月が経過しました。商業施設が減って寂しい状態だった中で、コープかすかべテラスが非常にありがたく、新しい店舗に多くの買物客を目にし、心弾む思いです。買物弱者の解消と地域のにぎわい創出のきっかけとなり、これから楽しいみな東口かいわいになっていくことと期待しています。

そこで、コープかすかべテラスの施設概要、オープンに伴うさまざまな効果を伺います。

○環境経済部長

春日部駅東口から徒歩7分に位置し、敷地面積4259・80平方メートル、建築面積は3534・29平方メートル、地上3階建て、延べ床面積1万364・92平方メートルとなっています。主なテナ

ントは、1階に食品スーパー、飲食店、クリーニング店、2階にはクリニックモール、春日部労働基準監督署、貸会議室など、3階には春日部公共職業安定所となっています。また、効果については、多種多様な施設による暮らしの利便性の向上、多くの方々が食品スーパーなどを訪れることによる人の流れ・にぎわいの創出、テナントなどの出店による雇用の創出、地域との交流や連携、地域への貢献などが考えられます。

このほか

○ひきこもり支援について

中心市街地の まちづくりについて



山崎 進
議員

春日部駅を中心に2031年度完成を目指して鉄道高架化工事が進んでいます。中心市街地が鉄道で分断されてきましたが、この事業で10力所の踏切が除却され、分断が解消され、人々の円滑な移動、商業・業務活動の活性化、にぎわいの創出が期待されます。

それには、まちづくりが重要になってきます。春日部の歴史を残しつつのまちづくりが望ましく、鉄道高架化があと6年程度で完成を目指しているからには、まちづくりも早急に着手しなければならぬと考えますが、まちづくりの将来像について伺います。また、古利根川を活用したまちづくりが望ましいと思います。が、市の考えを伺います。

○都市整備部長

春日部市中心市街地まちづくり計画で、中心市街地の特徴や現状の課題を踏まえ、4つの将来像が示されています。

○環境経済部長

大落古利根川の新町橋から埼玉橋までの区域が埼玉県事業である、水辺ベンチャーチャレンジ事業に登録されたことを受け、大落古利根川河川広場等利用調整協議会を立ち上げ、意見を募り、具体的な整備計画を埼玉県に提出しました。

その計画に基づき、工事の着手に向け、現在、埼玉県と技術的な調整を進めているところ です。

このほか

○スマホによる生活環境の変化について

スポーツについて



木村 圭一
議員



- ①eスポーツは、こどもから大人まで世代を超えて楽しめて健康増進につながるスポーツではないかと考えますが、本市は、eスポーツをどのように進めて行こうと考えているのでしょうか。
- ②こどもたちが道幅の狭い住宅街の道路などで、車両などを気にしながらスケートボードなどを行っている姿を見かけるたびに、もっと本市でも伸び伸びできる場所ができないものかと思えます。そこで本市は、浸水被害が多いことから調整池や遊水地を活用した吉川市のような施設の検討はできないのでしょうか。
- ③若者に人気なアーバンスポーツを推進していくことも、大事な取り組みだと思いますが、市長はどのように捉えているのでしょうか。
- 社会教育部長
- ①eスポーツの効果も含め、県や他自治体の動向を注視し、

情報収集などに努めていきます。②他自治体の整備事例や利用者ニーズなどの把握に努めていきたいと考えています。

○市長

③若者の文化を取り入れることで、新たな若者を引きつける効果があるものと私も日頃から意識しています。地域の元気を創出していく有効な手段であるとも考えています。

このほか

○教育センター再整備について

○ゴミ出しの課題について（多文化共存に伴うゴミ出しについて）

生活困窮者自立相談支援について



荒木 洋美
議員



生活困窮者は、就労の課題、心身の不調、家計の問題、家族の問題など、多様な問題に対応する支援が必要です。

先日、越谷市の生活困窮者自立支援の生活自立相談「よりそい」を視察しました。生活困窮者への支援を行うに当たっては、相談業務などに精

通している事業者に委託する必要がありますが、生活福祉課では生活保護の業務を行い、生活困窮者の支援事業については、事業を委託したほうが効率的であると考え、生活および就労支援に関する経験、並びに支援制度の事務に係る知見を十分に備えた事業者に業務委託しているとのことでした。

自立相談支援事業は、設置自治体の7割以上が委託で事業を行っているそうです。本市では、どのように考えているか伺います。

○福祉部長

本市の生活困窮者自立支援事業については、必要な資格を有した知識と経験のある相談支援員を採用していることから、相談員と職員が情報を共有し、解決に向けた対応を行っていると思います。

一方、業務委託では、専門性やノウハウなど、事業者の強みを生かすことができるメリットも考えられることから、市民サービス向上のため一つの方法として、近隣市の動向などを踏まえ、必要性を見極めていきたいと考えています。

○このほか

○防犯対策について

デフリンピックを盛り上げるために手話言語条例の制定を



大野とし子
議員



耳が聞こえないアスリートたちが競い合うスポーツの祭典であるデフリンピックが日本では初めて開催されます。今年で百周年となるデフリンピックを市として盛り上げ、市民の皆さんに手話に関心を持つてもらいたいと考えます。

市として、デフリンピックを盛り上げるためにどのように取り組むのか伺います。

また、ろう者の言語である手話を学び、手話を使い、手話を守ることができると春日部市とするため、県内53自治体が制定している手話言語条例を制定していくべきと考えますが、市の認識を伺います。

○福祉部長

周知は、第1にホームページで「東京2025デフリンピック」を表題に大会概要の掲載、第2に広報紙で、認知度の向上、第3に手話言語の国際デーとして公園橋にブルーライトアップを行います。

○市長

障がいのある人もない人も安心して暮らせる共生社会の実現のために、意思疎通の支援は重要です。関連する法の施行を踏まえ特性に応じた支援の充実に向け、自立支援協議会などの皆さんと議論を深めていきたいと考えています。

このほか

○小児休日夜間診療を実施し、切れ目なく命が守れる春日部市に

○高齢者の移動手段を確保し、自分らしく暮らせる春日部市に



市役所でのデフリンピックPR活動